

「生活にいかす力」を育てる指導法の工夫

学習効果を上げる学習題材の編成を目指して

大河原地区中学校教育研究会 技術・家庭科部会

白石市立 東 中学校 教諭 丹野佳之

柴田町立船岡中学校 教諭 青木知子

1 はじめに

めまぐるしく変化していく現代社会の中で私たちは生活している。一世代前までは考えもしなかったような少子高齢化社会や高度情報通信社会、環境問題などが私たちを取り巻いている。当然ではあるが、生活とは時代とともに変化していくものである。そして、その時代の生活に私たちは適応していかなければならない。時代とともに変化していく「生活」とは、その時その時に生み出されていく新たな生活スタイルである。そして、その「新たな生活」に適応していくためには、自らの積極的な働きかけにより切り拓いていく力が必要となってくる。

日々変化する現代社会での生活に密着し、生活を工夫し創造する力を付けなければならない。中学校技術・家庭科の授業時数は、必修では1・2年生週2時間、3年生では週1時間である。「生活にいかす力」を身に付けさせるために週1回の授業を効果的に組み立て既習事項を生活にフィードバックしていく教育課程の編成を目指すこととした。1週間ないし2週間の授業と授業の間を「生活で実践するための十分な時間」ととらえたのである。しかし、ただ時間があるということではなく、その間に学ぶ意識を「継続」させ、生活の中で既習事項を「確認・発展」させる時間ととらえた。

「継続」とは、単位時間の授業を核として、家庭での実践、そして次の時間の授業、題材と題材のつながり、単元と単元のつながり、更には教科間のつながりというように、学校での授業と生活での実践・学びが密接な関係で連続していることである。また「確認・発展」とは、新しい課題に直面した時、これまでの学びを生かしながら問題を解決し、実践していこうとする力であり、まさに「生活にいかす力」である。これらの連続した学習を実現できる教育課程の編成をめざし、研究・実践を進めてきた。

2 研究のねらい

(1) 問題解決的な学習をどの部分で取り入れ、いかに効果的な学習を進めていくか。

(2) 既習事項を次の単元、他教科、学校生活、日常生活に効果的につなげ発展させていくか。

以上2項目に着目し、教育課程の編成を進める。

3 研究の見通し

問題解決的な学習は、技術・家庭科においては先進的に取り入れており、その効果は様々な場面で立証されている。しかし、この学習方法は時間がかかる。そこで単元のはじめの部分で問題解決的な学習が中心の授業を行い、前述したように授業と授業の間に「継続」させるという題材等の配列も工夫する。更に、既習事項を他の学習場面や日常生活の中で意図的に生かす場面を設定し、「確認・発展」することができれば、「生活にいかす力」を身に付けさせることができるであろうと考えた。

4 研究の内容

(1) 技術分野

① 授業の構成と展開

ア 教育課程編成のモデル

<技術とものづくり>

小題材 問題解決的な学習が中心の授業

本題材 既習事項を生かした授業展開

発展学習 単元間、教科間、学校生活での「確認・発展」学習

小題材：技術とものづくりでは、小題材の製作を通してのこぎり引きやかんながけの技能等を成功体験や失敗体験を通してながら、自ら正確に効率的に工具を使用するという課題を解決していく。

本題材：小題材での既習事項を生かし、本題材の製作に取り組む。問題を解決する期間授業と授業の間を活用する。

発展学習：量販店等で購入した材料から目的の製品を適切な工具を使用して製作する例を示す。効率的な作業順序を考え、目的に向けて意欲的に行動する手法を様々な場面で実践する。

<情報とコンピュータ>

小題材 問題解決的な学習が中心の授業
基礎的・基本的内容の定着の時間

本題材 学校行事との関連を生かした授業展開

発展学習 家庭生活や地域での「確認・発展」学習

小題材：技術とコンピュータでは、15分程度で完成できる課題を提示してレディネステスト及び問題解決的な学習を展開しながら生徒の実態に即した基礎的・基本的な内容の定着の時間とする。

本題材：職場体験や校外学習・修学旅行の報告書を適切なアプリケーションソフトを使用し作成する。

発展学習：総合的な学習の時間における個人課題の問題解決や発表のまとめ、文化祭での活動等で適切にコンピュータを活用する方法を提示し、実践に結びつけるようにする。

授業パターンとしては、小題材に問題解決的な学習を取り入れ、基礎的・基本的内容の定着を図る時間とする。本題材では授業と授業の間に宿題等を提示して問題解決のための時間と設定する。発展学習では生活に生かす場面を意図的に提示し、生徒から意見を求める時間とする。

② 実践例

ア 実践例 1

研究内容で述べた小題材について大河原管内でアンケート調査を実施したところ下記に示す小題材があげられた。

<小題材>

- ・スライド式レターラックの製作
- ・ペンスタンドの製作
- ・小物入れの製作（木材・金属・アクリル等を用いて）
- ・丸太から鉛筆立てハウスの製作
- ・のこぎり引きコンテスト
- ・かんнауすけずりコンテスト
- ・はんだでリング
- ・みのむしクリップの製作
- ・ペイントを用いてヨットの製作

できるだけ実習の時間を多く設定すると回答した学校が多かった。小題材を問題解決的な学習の場と設定し、体験を通して基礎的・基本的な内容を身に付けさせようとする工夫がなされている。

イ 実践例 2

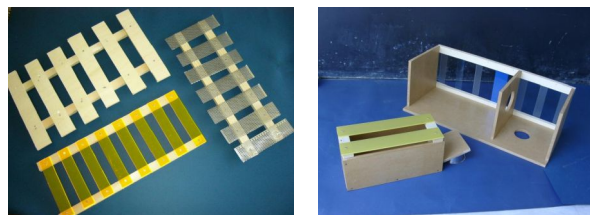
問題解決的な学習を効果的に取り入れ、学習の「継続」と「確認・発展」を柱とした教育課程

<1学年 技術とものづくり>

小題材（問題解決的な学習）	10h
パラレル・プレートボードの製作	

木材や金属、プラスチックを用い、同一サイズのプレートを複数必要とすることから部品加工の基本となる加工作業を繰り返すことで材料や工具

についての知識や加工技能の熟達につなげる。



パラレル・プレートボード

本題材の作品例

本題材 1（設計）	6h
-----------	----

パラレル・プレートボードを一部品とし、自分の生活の中で使用できる作品の設計
※課題として、使用目的を考え、寸法等を決めてくる。「継続」の時間ととらえる。

本題材 2（製作）	14h
-----------	-----

パラレル・プレートボードを一部品とし、自分の生活の中で使用できる作品の製作

発展	5h
----	----

デジタルカメラでの撮影と保存
画像を使った作品カードの作成
画像データベースの作成
※家に持ち帰って活用する期間を「確認・発展」の時間ととらえる。

<2学年 情報とコンピュータ>

小題材（問題解決的な学習）	3h
ペイントでヨットを作成し、ワードに貼り付け、文書を作成する。	

基礎・基本を学ぶ時間	10h
------------	-----

小題材の取り組みでの疑問点を土台にし、基礎・基本を的確に学ぶ。

本題材	20h
個人課題のレポートをパソコンで作成する。	

学校行事との関連を図り、既習事項を実生活で活用する場面とする。

発展	2h
----	----

学校や自宅で適切にパソコンを活用する。
具体的例を提示する。

<3学年 技術とものづくり>

環境教育を意識した実践

- エネルギーを変換して利用しよう
- 作物を栽培して生活に生かそう

※具体例については別紙参照

③ 研究のまとめ

大河原管内では実習の時間を多く設定し、かつ基礎的・基本的な内容をしっかり身に付けさせるための指導を行っている学校が多かった。そこで、それらの指導計画を大まかな形にまとめ、更に技術・家庭科で早くから取り組んで効果が実証されている問題解決的な学習を小題材製作に組み入れ、生徒自らが基礎的・基本的な

知識と技能を習得していく教育課程編成のモデルを作成した。また、週1回の授業を継続的に行っていくため、次の授業までの間を学習の振り返りの期間ととらえ、的確な課題の提示の方法を考えた。長期休業中も既習事項を生活にいかす期間と考え、その視点を提示する方法を考えた。

④ 今後の課題

学習の成果としては、本題材の取り組みにおいて、見通しを持った作業学習ができるようになった。また、技能面では小題材での成功体験や失敗体験を生かしながら適切に作業学習を進めることができるようになった。情意面では放課後や長期休業中にも時間を惜しんで製作に取り組む生徒も数多く見られた。

小題材では様々な実践事例が各学校から出された。それぞれの小題材のねらいを更に明確にし、各学校に広めていきたい。また、本題材では既習事項を生かした製作を展開することを通して、生活にいかす場合の手法を学ばせることも考慮したが、今後も管内の先生方と検証を進め、より良い授業計画を立案していきたいと考えている。

(2)家庭分野

① 授業の構成と展開

色々な問題を抱えている家族、家庭生活、自分の健康を脅かす食生活環境、地域社会に目を向けさせたい。そして、これから生きていく中でどのように生活していくことが望ましいことであり、期待されているのかを気づかせたい。そこで、生活の中から、生徒に疑問を抱かせ、それを手がかりに家族と地域の現実をとらえ、課題を見つけ出し、探究していく学習を試みた。

② 実践例

ア 実践例1

< 1年生の実践 >



課題を家庭に持ち帰り解決の糸口を見つけ出す桜の塩漬

< 2年生の実践 >



食生活に関心をもち食生活を見直すきっかけを提示する

< 3年生の実践 >



自分の成長段階に目を向け育てることの大変さを体験する

学び合いの場の工夫（地域の学習環境の活用）

生徒たちとのかかわりはもちろん、地域の中でのものの考え方ができるように、また、たくさんの方々とのかかわりの中から色々なことを学ぶために、授業の中にゲストティーチャー（GT）を導入したり、地域のものやことをふんだんに入れての学習を工夫した。

（問題解決的な学習）

地域には、生徒が興味・関心を示したり、学ばせたい教材が豊富にある。また、豊かな体験学習の場が多様であり、専門的な知識や技能を有する人材がいる。これらの学習環境を活用し、豊かな体験や問題解決的な学習を積極的に取り入れることで、「自ら課題を発見し、主体的に追究する生徒」になっていくものと考えた。生徒が主体的に学習を進めていけるよう学習過程や指導法について工夫した年間指導計画の作成、そして、どのような評価が生徒の基礎的・基本的な力となり確かな学力の向上に結びつくかを考え指導のあり方を工夫した。生徒自ら課題を発見し、主体的に追究して、学ぶ楽しさ、わかる喜び、学ぶ意欲を感じているような指導のあり方を、様々な教材・教具の開発によって効果をもたらすと信じて研究を進めた。

イ 実践例2

平成15年度～平成17年度の3年間

- * 「生活にいかす力を育てる指導法の工夫」について取り組んだ年間計画（題材・教材・教具の開発）（生徒一人一人の3年間の学び）

< 1学年 A 生活の自立と衣食住 >

☆学習題材 ◇学習内容 *開発教材・教具

☆A1 食生活を自分の手で

◇1 健康と食生活

- * 地域の健康データを使用
- * 人体モデルを作る

◇2 食品の選択と調理

- * 栄養士さんに学ぶ
- * 手作り食品カード



- ◇ 3 これからの食生活
 - * 加工食品を作る
 - * 季節の食材の大切さの理解の工夫

☆ A 3 自分らしく清潔に着る

- ◇ 1 日常着の活用
 - * デザイナーに学ぶ
 - * ティッシュケース
- ◇ 2 日常着の手入れ
 - * クリーニング技術に触れる
 - * 糸をつぐむ

◇ 3 これからの衣生活

☆ A 5 快適に住まう

- * 建築家に学ぶ
- ◇ 1 住まいのはたらき
- ◇ 2 家族と共に住まう
- ◇ 3 健康で快適に住まう

- * 災害の資料を活用する

◇ 4 自然と共に住まう

- < 2 学年 A 生活の自立と衣食住
B 家族と家庭生活 >

☆ B 1 中学生になるまで

- ◇ 1 私の成長と家族や周囲の人々
 - * 家族のメッセージに学ぶ

☆ B 6 わたしたちの消費生活と環境

- ◇ 1 生活に必要なもの
 - * 消費者センターの活用
- ◇ 2 商品の選択と購入
- ◇ 3 消費生活と環境
 - * 石けん・リサイクル・エコバック
(環境教育との連携)

☆ A 2 豊かに楽しく食べる (選択)

- ◇ 1 食生活の課題
 - * 地域のヘルスマイトの導入
 - ◇ 2 地域の食材とその調理
 - * 地域の食材活用
 - ◇ 3 色々な人と楽しむ会食
- < 3 学年 B 家族と家庭生活 >
コミュニケーション教育との連携
キャリア教育との連携
心の教育との連携
○ 子どもの成長
○ わたしと家族・家庭と地域
○ 地域の人々とのかかわり
※ 具体例については別紙参照

履修についての課題

- ・ 「家族と家庭生活」を何年生で履修することが効果的か。
- ・ 前期・後期制による時期的な関係からの教材

のあり方についてどうやるべきか。

- ・ 「生活の自立と衣食住」の学習で、学習内容の効果的な題材はどのようにとらえるか。

③ 研究のまとめ

「生きる・生活することと向き合う」教育が技術・家庭科でできることであり、大切なポイントになってきている。それは、「いかに生きるか」を考えさせ実践に結びつけさせることにある。

そのために、学習を通して自分と向き合うことができる指導計画・題材の工夫などの教材研究が効果をもたらすと感じた。それは、生活に対する(気づき)であり、生活の価値観(築く)ことであり、生きる力になると思われた。

④ 今後の課題

何が起きても不思議ではないめまぐるしく変化する社会情勢の中の家族を取り巻く環境の中において、生徒は、たくさんの場面における生きていくための力を身に付けていかなければならない。色々な家族があり、色々な食生活の問題がある中、世の中に対して、地域や環境に対しての適応力があればしっかり生きていくことができる。そのためには、たくさんの人々とのかかわり、コミュニケーションの取り方にかかってくると思われる。

このような点から、授業を通して様々な地域の環境に触れ、資料に触れ実際の生活に目を向けた学習。たくさん年代の方、色々な考えを持つ方とかかわっての学習は効果的であると考える。

生徒の学習の反省からも、「たくさんの資料や楽しい授業が多かった。」「たくさんの人の気持ちに触れることができた。」「もっともっと地域のことを知りたい。」「地域の中の一員としてできることをしてみたい。」という声を聞くことができたことは、目標を達成できつつあることに喜びを感じていると共に今後の指導の課題も見えてきた気がする。

地域の学習環境(ひと・もの・こと)や生徒の意欲を高めるための教具を開発したり、教材化することには時間もかかり大変なことも多い。まして、教師以外の外部講師(GT)とペア学習を計画した授業は、工夫点・課題も大きい。しかし、教師としての力量の向上にも結びつくことからますます研究したい点である。年間計画に位置付けたより効果的な教育課程の編成を開発することが今後の課題である。

